科目ナンバリング	U-LAS05 20018 LJ23				
授業科目名<英訳>	地域地理学各論II（欧米） Topics in Regional Geography II(Europe and America)		担当者所属職名・氏名	人間・環境学研究科 教授	山村　亜希
群	人文・社会科学科目群	分野(分類)	地域・文化(各論)	使用言語	日本語
旧群	A群	単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	講義（対面授業科目）
開講年度・開講期	2026・後期	曜時限	火3	配当学年	全回生	対象学生	全学向

[授業の概要・目的]

地域とは、土地固有の歴史・地理環境のもと、長い年月をかけて、人間社会が形成した産物であり、それゆえに個性がある。地域地理学は、このような大地と人間の物語として形成された地域の特性を見出し、その成り立ちと仕組みを考える。本授業では、ヨーロッパ地誌として、西欧の歴史都市に焦点をあてる。西欧では、ローマ帝国の拡大、キリスト教の伝播、封建領主の成立、近代国家の樹立、大航海時代の到来、産業革命など、共通する歴史を経験しながらも、地域ごとに都市のかたちは異なっている。都市景観の多様性は、その地の文化的価値を高めている。
本授業では、「地図と写真で学ぶヨーロッパ港町紀行」と題し、西欧各地の中近世の港町を事例として、16世紀の都市図や、近現代の地形図、現地で撮影した写真を活用しながら、各地の歴史・地理環境と都市空間の形成プロセスについて解説する。授業は、解説だけでなく、グループでの読図やディスカッションも併せて行う。高校の地理や世界史を履修していなくても良いが、地理・地図への興味関心を持って、着色作業などの手仕事を面倒がらずに、積極的に地図に向き合って受講して欲しい。

[到達目標]

地域の基本的な見方・考え方を理解する。現代から歴史を遡って、過去の景観を復原し、その特性を見出す視点と方法を学ぶことで、ヨーロッパの景観的特性や文化的価値を説明できるようになる。

[授業計画と内容]

授業の進行状況に応じて、順番や対象地を変更することもある。

第1回　授業の概要
第2・3回　町と大学と川湊：ケンブリッジ（イギリス）
第4・5回　大航海時代の港湾都市・成立：アムステルダム（オランダ）
第6・7回　地中海の「迷宮都市」：ベネチア（イタリア）
第8回　欧州サッカークラブの分布にみる地理
第9回　大航海時代の到来と港町：ポルト（ポルトガル）
第10回　ロンドンの港と水辺空間の変遷（イギリス）
第11回　期末レポートとその参考例の読図
第12回　フランス国家の海洋戦略と港町：マルセイユ（フランス）
第13回　干潟に浮かぶ港町：サン・マロ（フランス）
第14回　まとめ
第15回　フィードバック（フィードバック期間中に行う）

地域地理学各論II（欧米）(2)へ続く↓↓↓

地域地理学各論II（欧米）(2)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

期末レポート60%、平常点（授業への参加状況、小テスト）40%

[教科書]

使用しない
毎回、地図を中心とした大判のプリント（A3サイズ・2枚程度）を配布する。複数回で連続で使用し、前回の読図・着色作業を前提として講義を続ける場合も多いので、前回分も持参すること（ファイリングして持参がベター）。

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

予習・復習：授業中に終了しなかった読図・着色作業を行う。また、授業で紹介する参考文献を読んだり、読図や講義内容からの気づきを忘れないうちにメモしながら、授業内容を自分なりに文章化してまとめることが復習となる。

[その他（オフィスアワー等）]

授業中に地図や図表に着色するなどの作業を行うので、色鉛筆・マーカー（赤・青・黄色・緑の4色）や色ペン複数色を持参する。

[主要授業科目（学部・学科名）]

総合人間学部